

窪尼御前御返事

弘安元年六月二七日 五七歳

種々^{種々}の御供養送り給ひ候ひ了んぬ。

大風の草をなびかし、いかづちの^雷人をおどろかすやうに候よの中に、いかにいまゝで御^信しん^用ようの候けるふしぎさよ。ね^根ふ^葉かければはかれず、いづ^泉みに玉あれば水たえずと申すやうに、御^根信心^深のねのふかく、いさぎよき玉の心のうちにわたらせ給ふか。たう^貴と^貴したうとし。恐々謹言。

六月廿七日

日 蓮 花 押

くぼの尼御前御返事